

2024年09月09日発行



環境経営レポート

37期

2023年8月～2024年7月



NMCE-15 R01-M00173

目次

1. 環境経営方針	… P 1
2. 会社概要・事業内容・EA21推進体制	… P 2
3. EA21役割・権限・責任	… P 3
4. 環境経営目標(中期計画)	… P 4
環境経営目標 実績	… P 5
5. 環境経営計画	… P 6
6. 環境経営計画の取組結果の評価	… P 7
7. 環境関連法規制の遵守	… P 8
8. 次年度における計画の概要	… P 9
9. 代表者による全体の評価と見直し	… P 9

企業理念

日本マルチ株式会社は、多層プリント配線基板の回路設計、製造を営んでおり事業を通して「深刻化する地球環境」の保護・改善を社会的責務と認識し、全事業活動において環境負荷の低減を図り、自主的・積極的に環境保全活動に取り組めます。

環境経営方針

1. 全事業活動で、省資源を推進しCO₂・廃棄物の削減に努めます。
2. 廃棄物の分別回収を推進し再資源化に努めます。
3. 水の使用量を管理し節水に努めます。
4. 環境関連法規制、及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
5. 環境経営目標・環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い継続的な改善に努めます。
6. 使用する化学物質に関する情報を入手・活用して自主的な化学物質管理を推進します。
7. グリーン製品を積極的に購入・使用します。
8. 環境への取組みを環境経営レポートとしてとりまとめ、公表します。

2020年8月11日

日本マルチ株式会社
代表取締役社長 田中 輝生

2. 会社概要・事業内容・EA21推進体制

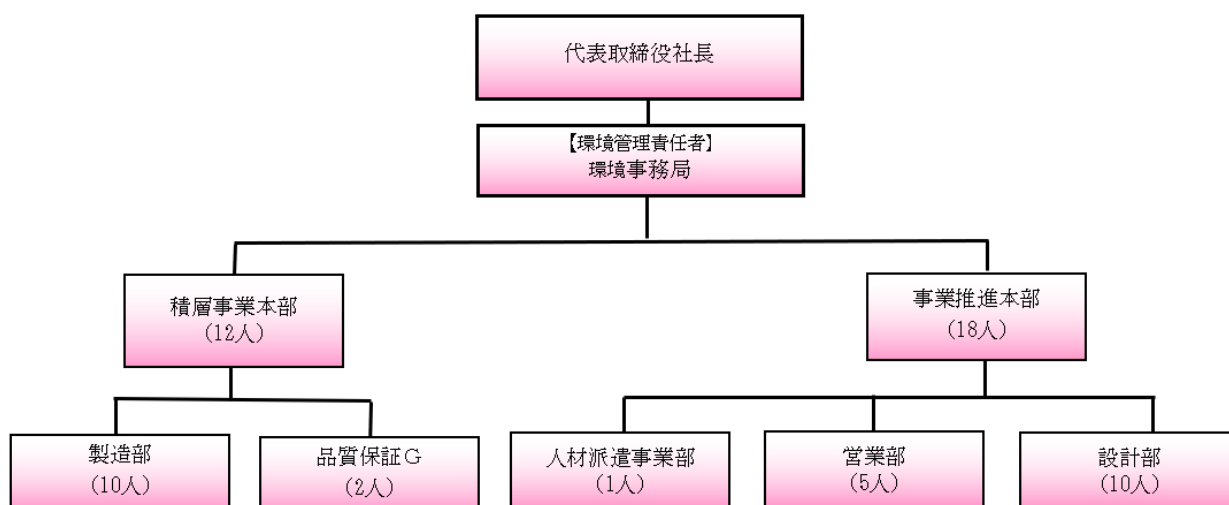
事業所及び代表社名 日本マルチ株式会社
 代表者氏名 田中 輝生
 所在地 〒192-0032 東京都八王子市石川町2685-1
 設 立 昭和62年12月
 資本金 30,000,000円
 環境管理責任者 諸角 肇
 連絡先 TEL:042-643-6107 FAX:042-648-8661
 従業員数 30名（2025年6月現在）
 事業規模

活動規模	単位	33期 2019/8～2020/7	34期 2020/8～2021/7	35期 2021/8～2022/7	36期 2022/8～2023/7	37期 2023/8～2024/7
主要製品 生産量	m ²	12,631.0	12,928.0	16,331.5	15,484.0	9,701.0
売上高	万円	78,470	72,932	96,414	93,174	90,295
従業員	人	28	30	30	30	30
床面積	m ²	820.53	820.53	820.53	820.53	820.53
敷地面積	m ²	987.36	987.36	987.36	987.36	987.36

2) 事業内容

多層プリント配線基板の回路設計・製造、それに関する開発研究及び派遣事業

3) EA21推進体制(組織図)



3. EA21役割・権限・責任

環境に関する主要な役割・権限・責任は以下の通りにする。

EA21代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任
	・環境経営システムの実施に必要な、人、設備、費用、時間、技能・技術者を用意
	・環境管理責任者を任命
	・環境経営方針の策定・見直し
	・環境経営目標・環境経営計画書を承認
	・代表者による全体の評価と見直しを実施
	・実施体制の構築
	・経営における課題とチャンスの明確化
	・環境経営レポートの承認
	・全従業員に周知する
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理
	・環境関連法規等の取りまとめ表を承認
	・緊急事態への準備と対応
	・環境経営目標・環境経営計画書を確認
	・環境経営の取組結果を代表者へ報告
	・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員の事務局
	・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施
	・環境経営目標・環境経営計画書原案の作成
	・環境経営の実績集計
	・環境経営関連の外部コミュニケーションの窓口
	・環境経営レポートの作成、HP公開
部門長	・自部門における環境経営システムの実施
	・自部門の従業員に対する教育訓練の実施
	・自部門に関連する環境経営目標実施、達成状況の報告
	・特定された項目の手順書運用管理
	・自部門の問題点の発見、是正、予防処置
環境推進員	・環境事務局・部門長の補佐
	・環境経営・環境経営計画書の記録、管理
	・自部門のEA21の推進
全従業員	・環境経営目標と環境経営計画の自覚
	・決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営への活動参加

4-1. 環境経営目標(中期計画)

削減項目		単位	基準値	削減目標（基準年×生産量比率×1%削減）		
			【35期】 2021'08～2022' 07	37期目標数値	38期目標数値	39期目標値
				35期比 1.21倍×0.99	35期比 生産比率×0.98	35期比 生産比率×0.97
CO2 削減	①購入電力	[kWh]	709,102	849,433	694,920	687,829
	②重油	[L]	27,000	32,343	26,460	26,190
	③ガソリン	[L]	1,591	1,906	1,559	1,543
	④LPガス	[kg]	21.90	26.23	21.46	21.24
	総排出量	[kg-CO2]	306,746	367,451	300,611	297,544
廃棄物 削減	一般廃棄物排出量	[t]	4.13	4.95	4.05	4.01
	産業廃棄物排出量	[t]	231.74	277.60	227.11	224.79
	廃棄物等総排出量	[t]	235.87	282.55	231.15	228.79
排水量 削減	総排出量	[m³]	5,496	6,584	5,386	5,331
化学物質 投入量 削減	化学物質総排出量・ 移動量削減	[t]	38.89	46.59	38.11	37.72

※ 基準年【32期】生産数×生産比率×今季目標数値で目標設定を致しております。

電力の二酸化炭素排出係数は0.324 東京電力エナジーパートナー(株)で算出

4-2. 環境経営目標 実績

削減項目		単位	基準値	削減目標(基準年×生産量比率×0.97)		
			【35期】 2021'08～2022' 07	37期結果 (達成率)	×生産量比率	37期目標数値
					35期比 1.21倍	削減率1% (×0.99)
CO2 削減	①購入電力	[kWh]	709,102	476,655 (178%)	858,013.4	849,433
	②重油	[L]	27,000	21,000 (154%)	32,670.0	32,343
	③ガソリン	[L]	1,591	2507.8 (76%)	1,925.1	1,906
	④LPガス	[kg]	21.90	26.6 (99%)	26.5	26.2
	総排出量	[kg-CO2]	306,746	217,943 (169%)	371,162.7	367,451
廃棄物 削減	一般廃棄物排出量	[t]	4.13	1.18 (419%)	5.00	4.95
	産業廃棄物排出量	[t]	231.74	185.72 (149%)	280	278
	廃棄物等総排出量	[t]	235.87	186.9 (151%)	285	283
排水量 削減	総排出量	[m ³]	5,496	3,288 (200%)	6,650	6,584
化学物質 投入量 削減	化学物質総排出量・ 移動量削減	[t]	38.89	25.07 (186%)	47.1	46.59

※ 32期生産数×生産比率×今季目標数値で目標設定を致しております。

電力の二酸化炭素排出係数は0.324 東京電力エナジーパートナー(株)で算出

5. 環境経営計画の実施項目

環境経営計画必須3項目についての実施項目

1) CO2総排出量削減のための取組み

- a) 電力消費量削減
 - ア) 節電: 空調温度設定(冷房27℃、暖房22℃)、休憩時の各機械切、PC等の電源切
温度制御製造マシン始動時間を季節ごとに調整(カレンダータイマー等)
 - イ) 空調機フィルター清掃[1回/月]
 - ウ) 扉開閉による空調電力の節約
 - エ) 断熱材等の使用による冷・暖房効率の向上
- b) 重油使用量の削減
 - ア) ボイラー始動時間の季節ごとの調整
 - イ) 過熱作業終了時、ボイラー切の徹底
- c) ガソリン消費量削減
 - ア) 社用車の自主点検実施(空気圧・オイル量[各1回/月])
 - イ) 社用車の燃費確認[各1回/月]
 - ウ) マナー走行及びアイドリングストップの奨励
- d) LPガス消費量削減
 - ア) ガス給湯器の季節使用

2) 廃棄物総排出量削減のための取組み(一般廃棄物、産業廃棄物)

- a) 廃棄物の削減
 - ア) 再資源化・再利用の為の分別(市一般回収、再資源化回収、顧客返却他)
 - イ) 梱包ダンボールの再利用・再資源化回収
 - ウ) 紙ゴミの再利用(緩衝材)・再資源回収
 - エ) ペットフィルムの再資源化
 - オ) ビニール袋のリユース化推進(取引業者への回収返却)
- b) コピー用紙の削減
 - ア) コピーの裏紙使用
 - イ) コピー用紙使用量の削減、ペーパーレス化の推進
- a) 水使用量の管理、水量メーターを確認[毎朝1回/日](トラブルによるムダ水防止)
- b) 再生水利用量の調整(新水使用の低減)

3) 化学物質総排出量・移動量削減のための取組み

- a) 薬品添加量の見直し・調整
- b) 温度制御の見直しによる薬品の熱分解防止の実施
- c) 関連法規の遵守

6. 環境負荷低減の実績・評価

37期は36期に比べ大幅に生産㎡数は減少したものの、電気料金を含め副資材料等の高騰が止まらず作業の効率化が急務となり、会社全体では「無駄な電気は消す」、現場では「不良を出さない」を目標に効率に取り組んでまいりました。

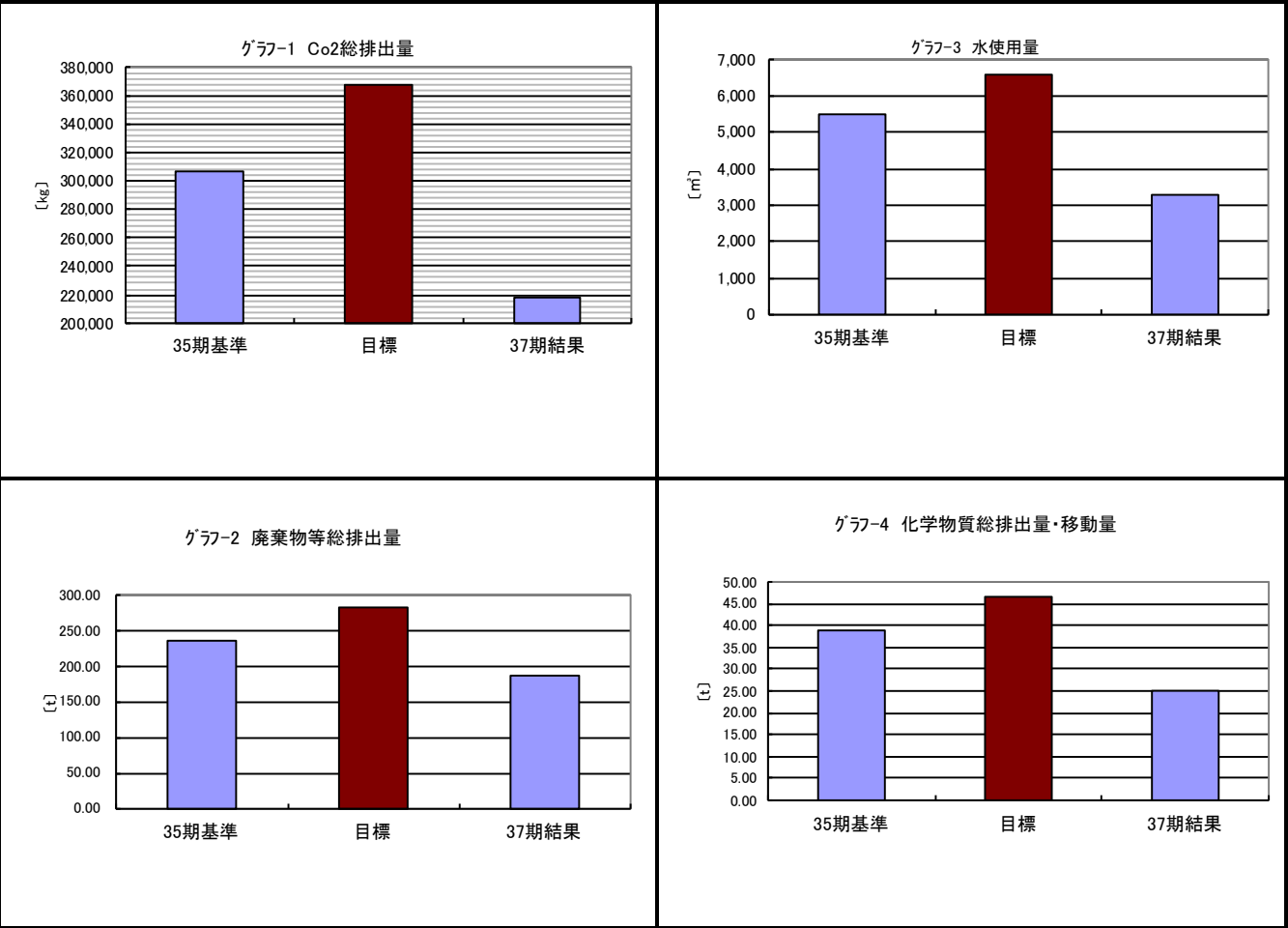
【現状・結果】

積層事業に於いて、電気料金、材料、副資材料等の価格高騰に伴い生産効率の向上、作業効率の改善に取り組んでまいりました。結果として目標をクリアできましたので取り組んできた内容は間違っていなかったと確信しております。

表-1 環境負荷低減の実績・評価

※評価基準・・・○→目標達成(100%以上) △→基準達成(90～100%未満) ×→目標未達成(90%未満)

削減項目		単位	35期基準 2021年8月～ 2022年7月	目標	37期結果 2023年8月～ 2024年7月	目標達成率	評価
CO ₂ 総排出量	購入電力	[kwh]	709,102	849,433	476,655	178	◎
	重油	[L]	27,000	32,343	21,000	154	◎
	ガソリン	[L]	1,591	1,906	2,508	76	△
	LPガス	[kg]	21.90	26.23	26.60	99	△
	総排出量	[kg-CO2]	306,746	367,451	217,943	169	◎
廃棄物等 総排出量	一般廃棄物	[t]	4.13	4.95	1.18	419	◎
	産業廃棄物	[t]	231.74	277.60	185.72	149	◎
	総排出量	[t]	235.87	282.55	186.90	151	◎
総排水量		[㎡]	5,496	6,584	3,288	200	◎
化学物質 総排出量移動量		[t]	38.89	46.59	25.07	186	◎



7. 環境関連法規制の遵守

環境関連法規への違反、訴訟等の有無：環境関連法への違反はありませんでした。尚、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間ありません。

区分	法規制等名称	義務事項または主な内容
廃棄物	廃棄物処理法	産業廃棄物置き場の保管基準の遵守
		産業廃棄物の委託契約の締結
		管理票(マニフェスト)の交付、管理。管理票交付状況の報告
		特別管理産業廃棄物管理責任者の選任と届出 特別管理産業廃棄物減量計画書・実施状況報告書の提出(前年度発生量50t以上)
化学物質	PRTR法	指定化学物質の排出量及び移動量の把握・届出
	毒劇法	急性毒性などに着目して、毒物や劇物を指定し、製造、輸入、販売、取扱いなどの規制
	労働安全衛生法	化学物質の有害性の調査
	消防法	消防用設備点検・報告
	東京都環境確保条例	適正管理化学物質の使用量報告
水質	下水道法	貯油施設の事故時の対応と届出。該当有無の確認
		排水の定期的水質検査
騒音・大気	騒音規制法	工場及び事業場における事業活動並びに建設工事に伴って発生する相当範囲にわたる騒音について必要な規制
	振動規制法	工場及び事業場における事業活動並びに建設工事に伴って発生する相当範囲にわたる振動について必要な規制
	フロン排出抑制法	フロン類の製造から廃棄まで、ライフサイクル全体を包括的な対策を実施 使用環境下におけるフロン類の漏洩防止(定期的に、①異臭、②異音の点検実施 3年毎の専門業者による点検) 簡易点検の実施(3ヶ月毎)
	大気汚染防止法	工場及び事業場における事業活動並びに建築物の解体等に伴うばい煙、揮発性有機化合物及び粉じんの排出等を規制
グリーン購入		業務用用具購入 製造資材の購入(顧客注文要請により)

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

今期より【35期】を基準年度とし、生産数量の増減比率に応じた削減目標を設定致しました。

38期は35期の基準値に生産量比率を掛け2%の削減を目標とします。

CO2総排質量削減の取り組み、廃棄物・総排水量・化学物質総排質量の削減

各項目を細分化し、環境経営計画の実施項目を定めました。

削減項目		単位	基準値	
			【35期】 2021' 08～2022' 07	38期 目標値 35期×生産量比率 ×0.98
CO2削減	①購入電力	[kWh]	709,102	694,920
	②重油	[L]	27,000	26,460
	③ガソリン	[L]	1,591	1,559
	④LPガス	[kg]	45.33	44.42
	総排出量	[kg-CO2]	306,746	300,611
廃棄物削減	一般廃棄物排出量	[t]	3.72	3.65
	産業廃棄物排出量	[t]	260.74	255.53
	廃棄物等総排出量	[t]	264.46	259.17
排水量 削減	総排出量	[m³]	5,496	5,386.08
化学物質 投入 量削減	化学物質総排出 量・移動量削減	[t]	97.53	95.58
生産不良削減	社内生産不良率	%	0.40	0.39

※ 基準年【35期】生産数×生産比率×今季目標数値で目標設定を致しております。

電力の二酸化炭素排出係数は0.408 東京電力エネルギーパートナー(株)で算出

- 1) 38期も生産量の減少が続く可能性が考えられますが、生産効率、作業効率を随時改善していき目標を達成できるように努力致します。
- 2) ゴミ収集、分別方法、分別内容等、判りやすい表示方法、も含めて具体的な施策を打ち出して、全社員がスペシャリストとなれる様、活動致します。
意見交換、教育訓練の実施を定期的に行っていきます。
- 3) 宅配便の使用を抑える為、営業活動をしなが製品持ち込めるようなルートを確認します。
- 4) 社内生産不良率 0.4%を限りなく "0" になるべく対策致します。

9. 代表者による全体の評価と見直し

- 1) 生産量が減少している状況であり達成しやすい状況であったのは否めないが、日頃の活動成果が表れていると思います。
来期以降も継続して達成できるよう取り組んでください。
- 2) 厚銅製品の生産量が増加傾向であり、同じ生産量でも、排水や化学薬品の使用量の増加が予想されるので、目標設定の見直しが必要か検討してください